

スーパーマーケット景気動向調査

2022年6月調査結果（5月実績）
（2022年6月21日公表）

スーパーマーケット中核店舗を対象として経営動向や景気判断を調査し、月次でスーパーマーケット経営を取り巻く内外の環境変化を定量的に明らかにすることを目的としています。またスーパーマーケット販売統計調査における売上変動の要因やカテゴリー別好不調要因を補足する役割を果たすことも期待しています。

【経営動向調査】

1. 経営状況：「売上」「収益」「生鮮品仕入原価」「食品仕入原価」「販売価格」「客単価」「来客数」スーパーマーケット中核店舗における各経営状況について

- ・前年同月と比較し「かなり増加」から「かなり減少」までの5段階で評価
- ・前年同月を100とした当月の値を調査 ※2014年4月実績より

2. カテゴリー動向：「青果」「水産」「畜産」「惣菜」「日配」「一般食品」「非食品」スーパーマーケット中核店舗における各カテゴリーに販売動向について、

- ・前年同月と比較し「かなり好調」から「かなり不調」までの5段階で評価
- ・各カテゴリーの好不調要因についてのコメント

経営動向調査DI (Diffusion Index) の算出方法

回答構成比 (%) に以下の点数を乗じてDIを算出

かなり改善+0.5・やや改善+0.25・変わらない±0・やや悪化-0.25・かなり悪化-0.5

※すべて企業が「変わらない」と回答した場合、DIは「0」

【景況感調査】

1. 景況感：「景気状況」「消費者購買意欲」「店舗周辺の競合状況」「店舗周辺地域の景気」について、

- ・2～3ヵ月前と比較した現状について「かなり改善」から「かなり悪化」まで5段階で評価
- ・今後2～3ヵ月の見通しについて「かなり改善」から「かなり悪化」までの5段階で評価

景況感DI (Diffusion Index) の算出方法

回答構成比 (%) に以下の点数を乗じてDIを算出

かなり改善+1.0・やや改善+0.75・変わらない+0.5・やや悪化+0.25・かなり悪化+0

※すべて企業が「変わらない」と回答した場合、DIは「50」

一般社団法人 全国スーパーマーケット協会
一般社団法人 日本スーパーマーケット協会
オール日本スーパーマーケット協会

6月調査（5月実績）結果概況

景気判断DIは現状・見通しともに悪化

5月のスーパーマーケット中核店舗における景気判断DIの現状判断は、前月から-3.0の38.8、見通し判断は前月から-1.9の34.7となり、現状判断、見通し判断とも前月から悪化した。

経営動向調査では、内食需要の低下や価格上昇等による販売点数の減少を受け、売上高DI、収益DIともにマイナス幅は二桁となった。一方で、生鮮品仕入原価DI、原料価格等の高騰による食品仕入原価DIは、調査開始以来最高水準で推移しており、販売価格は高止まりが続いている。一方で、客単価DIはプラスを維持しているものの、伸び悩みをみせた。昨年是一部地域で緊急事態宣言が出ていたゴールデンウィーク期間を中心に人流変化の影響がみられ、来客数DIは抑えられた状況が続いている。

カテゴリー動向調査では、前年に比べ内食需要が低下した影響で、すべてのカテゴリーにおいて、前月に比べマイナスとなっており、特にこれまで内食需要を支えてきたカテゴリーで影響が大きかった。一方で、行楽や行事需要の回復もあって、惣菜DIは10.9と唯一プラスとなった。（カテゴリー動向については最終ページに詳細を掲載）

景況感調査は、すべてのDIが前月より悪化しており、特に現状判断での悪化幅が大きくなった。（長期傾向についてはP11参照）

行動制限のない今年は、全般的に前年の反動が大きい月となった。また、値上げや生鮮価格の高騰も続いており、販売点数の減少を指摘するコメントも多くみられた。GW期間に帰省や観光に出掛けた消費者も多く、都市部の住宅地立地店舗などで影響が大きかった。

長期化する物価高騰は、消費者生活全般にまで波及しつつあり、今後予想される生活防衛意識の高まりは、家庭内食事需要の再拡大につながる可能性もある。そのためにも、食品消費に限定せず家計消費の全体動向を捉え、消費者心理を的確に把握し、そこにアプローチすることが重要となるだろう。

景況感調査

現状判断

景気判断DI
当月：38.8 (-3.0)
前月：41.8

消費者購買意欲DI
当月：38.8 (-3.4)
前月：42.2

周辺地域 競合状況DI
当月：41.3 (-1.9)
前月：43.2

店舗周辺地域 景気判断DI
当月：41.5 (-2.5)
前月：44.0

見通し判断

景気判断DI
当月：34.7 (-1.9)
前月：36.6

消費者購買意欲DI
当月：35.8 (-1.4)
前月：37.2

周辺地域 競合状況DI
当月：40.9 (-0.6)
前月：41.5

店舗周辺地域 景気判断DI
当月：40.0 (-1.9)
前月：41.9

経営動向調査 経営状況

売上高DI
当月：-12.5 (-6.7)
前月：-5.8

客単価DI
当月：1.9 (-8.4)
前月：10.3

来客数DI
当月：-15.2 (+1.6)
前月：-16.8

収益DI
当月：-14.9 (-10.6)
前月：-4.3

販売価格DI
当月：17.6 (-0.7)
前月：18.3

生鮮品仕入原価DI
当月：19.3 (+0.1)
前月：19.2

食品仕入原価DI
当月：20.9 (0.0)
前月：20.9

カテゴリー動向

青果DI
当月：-5.7 (-7.0)
前月：1.3

水産DI
当月：-19.0 (-7.4)
前月：-11.6

畜産DI
当月：-19.2 (-7.3)
前月：-11.9

惣菜DI
当月：10.5 (-2.4)
前月：12.9

日配DI
当月：-10.7 (-6.0)
前月：-4.7

一般食品DI
当月：-14.9 (-6.5)
前月：-8.4

非食品DI
当月：-9.2 (-1.9)
前月：-7.3

※DI値は前年同月との比較／○内は前月DIからの変化

結果詳細 I. 経営動向調査 (2014年1月～)

1. 売上高DI

当月大幅に低下し、2か月連続のマイナス

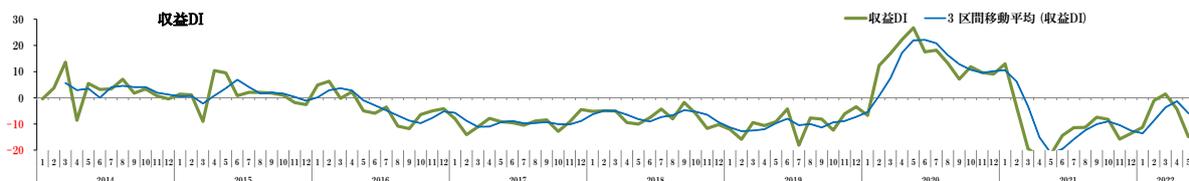
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
売上高 (前月)	9.8	35.3	27.2	23.9	3.8	-5.8
売上高 (当月)	15.1	40.4	25.3	17.8	1.4	-12.5



2. 収益DI

当月大幅に低下し、2か月連続のマイナス

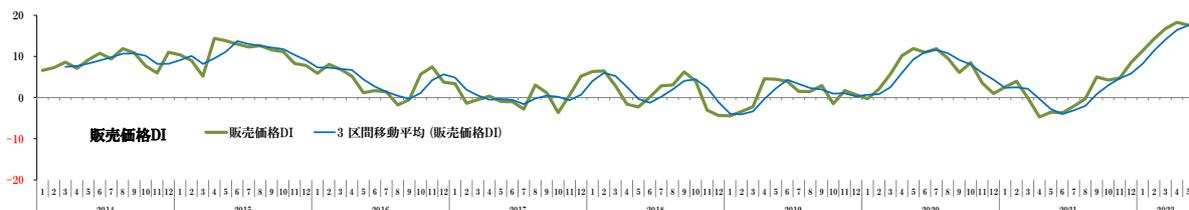
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
収益 (前月)	8.3	34.4	30.6	19.4	7.2	-4.3
収益 (当月)	16.1	42.7	28.7	9.8	2.8	-14.9



3. 販売価格DI

前月より小幅に低下も、調査開始以来の最高水準で推移

回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
販売価格 (前月)	0.0	2.7	28.4	61.7	7.1	18.3
販売価格 (当月)	0.7	3.4	28.1	60.3	7.5	17.6



4. 客単価DI

プラス幅を大幅に縮小

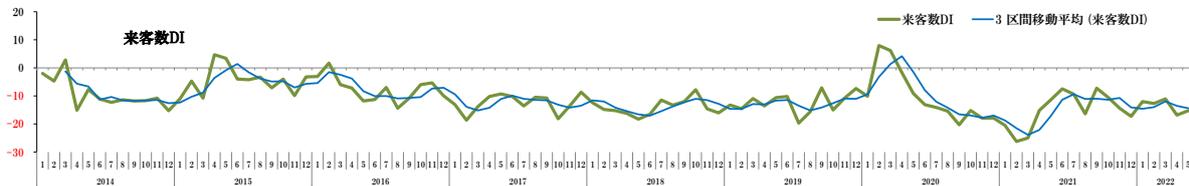
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
客単価 (前月)	0.0	15.9	30.8	49.5	3.8	10.3
客単価 (当月)	4.1	24.5	35.4	32.0	4.1	1.9



5. 来客数 DI

二桁マイナス圏で推移が続く

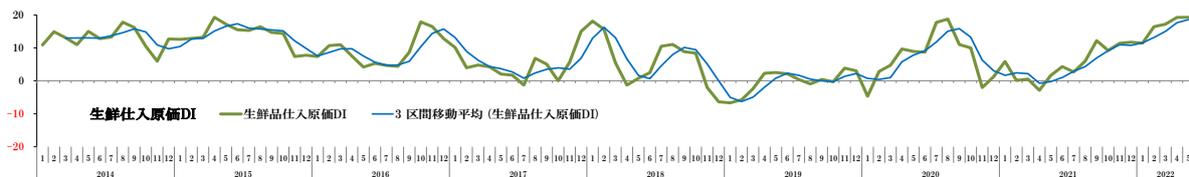
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
来客数 (前月)	15.2	46.7	28.8	8.7	0.5	-16.8
来客数 (当月)	18.5	39.0	28.1	13.7	0.7	-15.2



6. 生鮮仕入原価 DI

二桁プラス圏で高止まり

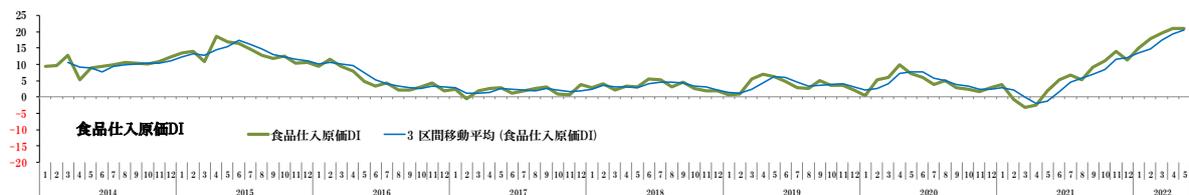
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
生鮮仕入原価 (前月)	0.0	4.5	25.8	57.9	11.8	19.2
生鮮仕入原価 (当月)	1.4	4.3	24.3	55.7	14.3	19.3



7. 食品仕入原価 DI

13ヵ月連続プラス値、調査開始以来の最高値水準で推移

回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
食品仕入原価 (前月)	0.6	4.5	19.8	61.0	14.1	20.9
食品仕入原価 (当月)	0.7	5.7	18.4	59.6	15.6	20.9

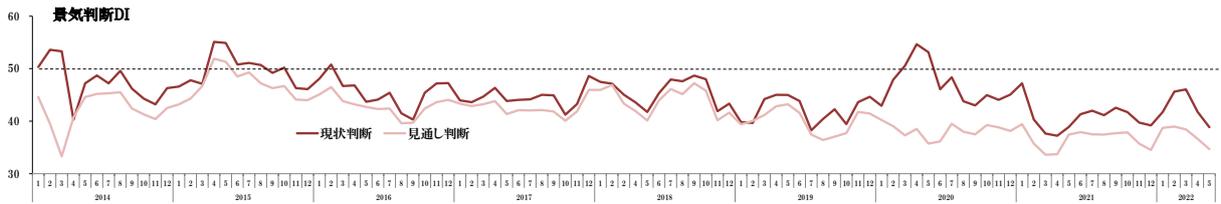


II. 景況感調査 (2014年4月～/周辺地域景況判断2010年4月～)

1. 中核店舗景況判断 DI

現状判断は2か月連続で悪化、見通し判断も小幅に悪化

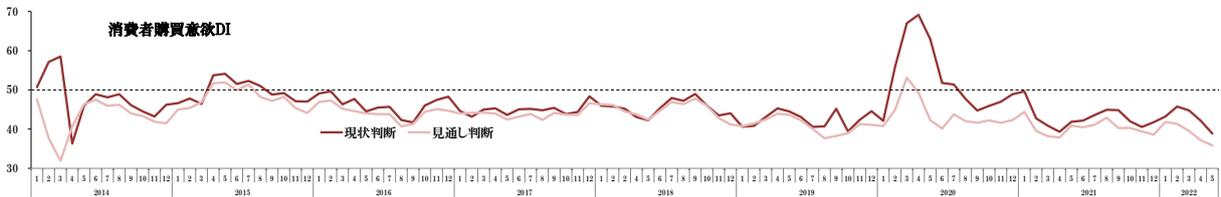
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】景況判断 (前月)	3.8	36.2	49.2	10.8	0.0	41.8
【現状】景況判断 (当月)	5.3	41.3	46.0	7.3	0.0	38.8
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】景況判断 (前月)	6.5	47.6	38.9	7.0	0.0	36.6
【見通し】景況判断 (当月)	8.7	48.0	39.3	4.0	0.0	34.7



2. 消費者購買意欲 DI

現状判断は2か月連続で悪化、見通し判断も小幅に悪化

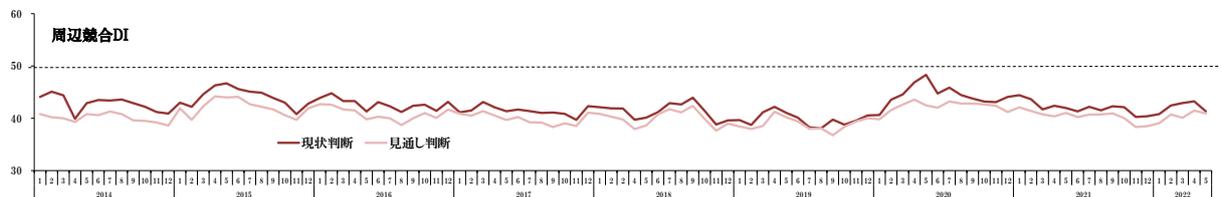
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】購買意欲 (前月)	2.7	35.1	53.0	9.2	0.0	42.2
【現状】購買意欲 (当月)	2.7	45.3	46.0	6.0	0.0	38.8
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】購買意欲 (前月)	4.3	47.0	44.3	4.3	0.0	37.2
【見通し】購買意欲 (当月)	4.7	51.3	40.0	4.0	0.0	35.8



3. 中核店舗周辺競合状況 DI

現状判断は悪化、見通し判断は小幅に悪化

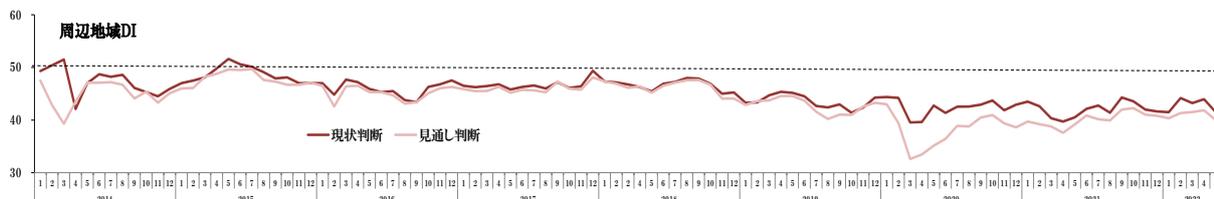
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】競合状況 (前月)	2.2	25.4	69.7	2.7	0.0	43.2
【現状】競合状況 (当月)	4.0	28.7	65.3	2.0	0.0	41.3
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】競合状況 (前月)	4.9	26.5	66.5	2.2	0.0	41.5
【見通し】競合状況 (当月)	4.7	28.9	64.4	2.0	0.0	40.9



4. 中核店舗周辺地域景気判断DI

現状判断は悪化、見通し判断は小幅に悪化

回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】地域景気 (前月)	1.1	25.8	69.2	3.8	0.0	44.0
【現状】地域景気 (当月)	2.0	34.7	58.7	4.7	0.0	41.5
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】地域景気 (前月)	2.8	31.5	61.3	4.4	0.0	41.9
【見通し】地域景気 (当月)	2.7	38.0	56.0	3.3	0.0	40.0

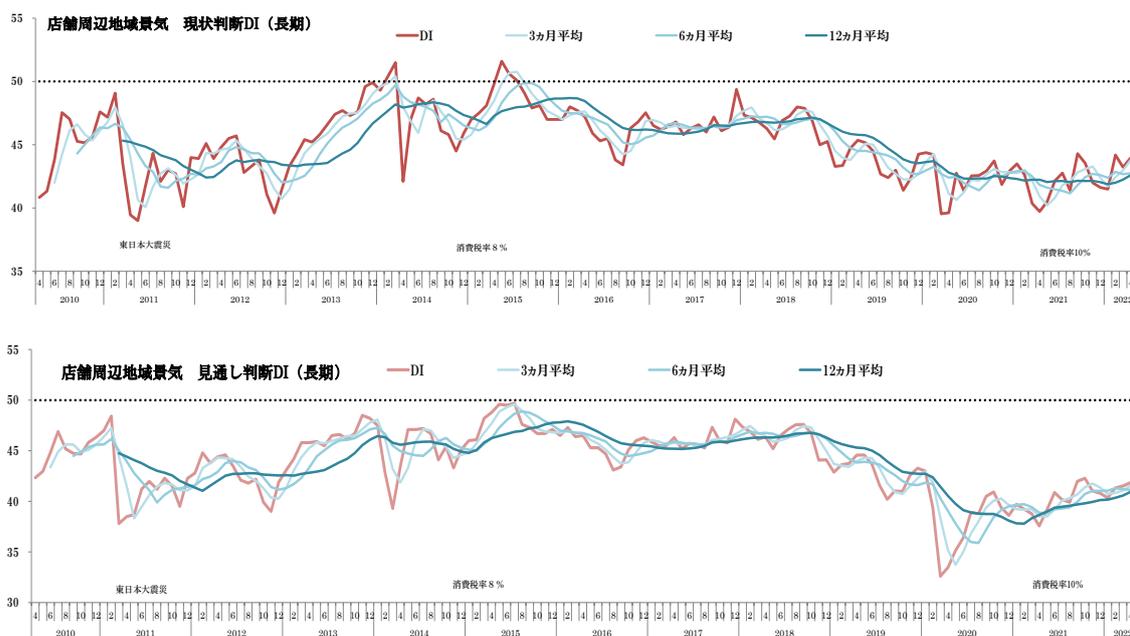


・中核店舗周辺地域景気判断DI 長期傾向 (2010年4月～)

周辺地域景気判断DIは、2011年3月の東日本大震災以降低迷を続けていたが、12年11月から16ヵ月にわたる改善が続き、14年3月には現状判断DIが51.5を記録した。14年4月の消費税率8%への引き上げにより、大幅に悪化したものの、その後徐々に持ち直しをみせ、2015年5月には現状判断DIは51.6にまで達し、調査開始以来の最高値を更新した。

しかしこれをピークに、その後15ヵ月間にわたり悪化傾向が続き16年9月には、現状判断DIは43.4まで低迷した。以後方向感の乏しい推移が続いていたが、18年の後半から悪化傾向が顕著となり、徐々にその水準を切り下げており、19年7月には現状判断DIは42.3まで低下した。

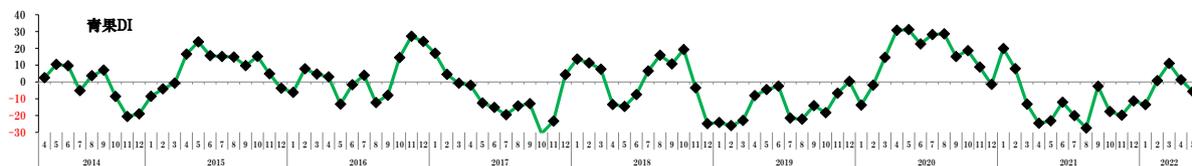
20年2月に大幅に悪化したが、その後持ち直しの動きが続いた。21年以降は、感染状況により上下に振られる不安定な動きが続いている。



Ⅲ. カテゴリー別動向

1. 青果DI：-5.7（やや不調）

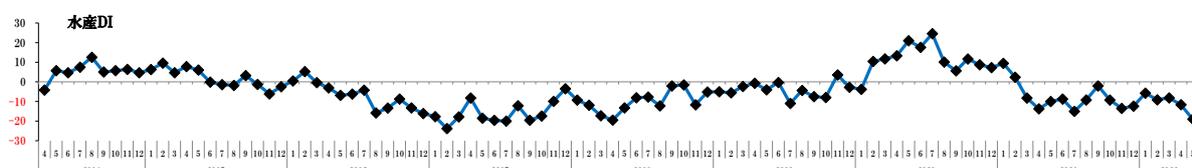
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
青果（前月）	4.0	32.6	23.4	34.3	5.7	1.3
青果（当月）	12.1	31.2	27.0	27.0	2.8	-5.7



青果相場が全般的に高値で推移した一方で、前年の緊急事態宣言下との比較で、買上点数は大幅な落ち込みをみせた。販売数量の多いタマネギやじゃがいもをはじめとする土物類、キャベツやレタスなどの葉物の単価上昇により好調。高い気温により、オクラや枝豆などの夏野菜やトマトなどサラダ関連野菜は好調に推移した。果物類は、カットフルーツが好調に推移する一方、国産果物は動きが悪く、円安の影響でオレンジやキウイフルーツなどの輸入果物が高騰しており共に不振となった。

2. 水産DI：-19.0（不調）

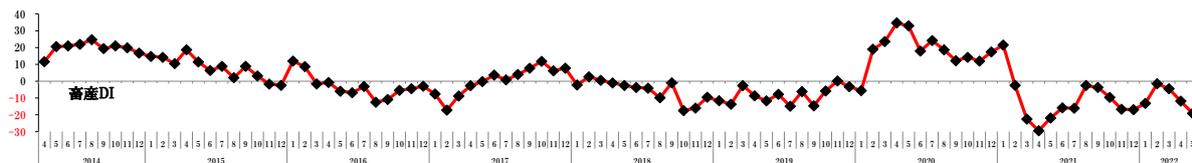
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
水産（前月）	11.4	46.0	23.3	16.5	2.8	-11.6
水産（当月）	27.0	38.3	19.1	14.9	0.7	-19.0



緊急事態宣言が発令されていた前年の反動により低迷した。また漁船の燃料費高騰、不安定な生魚の入荷、サーモンなど輸入魚の高騰など、全般的に相場高傾向が続き販売に苦労している。近海魚や地魚の販売を強化している店舗もみられる。刺身類は、ゴールデンウィーク期間の帰省や集まりの再開もあって、好調となった。前年好調であったうなぎ、アサリ産地偽装問題の影響で貝類は不振となった。

3. 畜産DI：-19.2（不調）

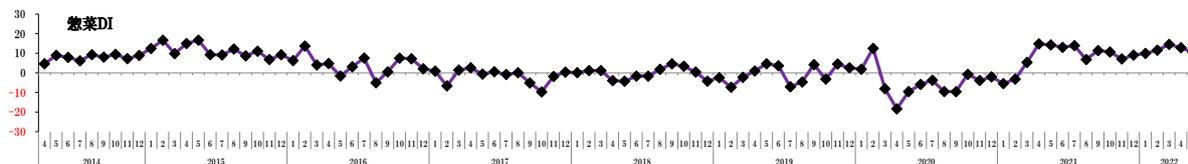
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
畜産（前月）	14.7	38.4	29.4	14.7	2.8	-11.9
畜産（当月）	22.5	43.0	24.6	8.5	1.4	-19.2



ゴールデンウィーク期間の人流変化による影響を受けた店舗が多かった。肉食需要の落ち着きにより、全般的に買上点数が低迷した。輸入肉の価格上昇が続いており、不振となっている。牛肉は、焼肉、ステーキ用が好調も、アメリカ産牛肉の価格高騰により販促を打ちにくい状況が続いている。比較的価格が安定している国産豚肉や、相場が落ち着いている鶏肉に需要がシフトしているとのコメントが多かった。ハムなどの加工肉は前年に好調だった反動もあり、伸び悩んだ店舗が多い。

4. 惣菜DI：10.5（好調）

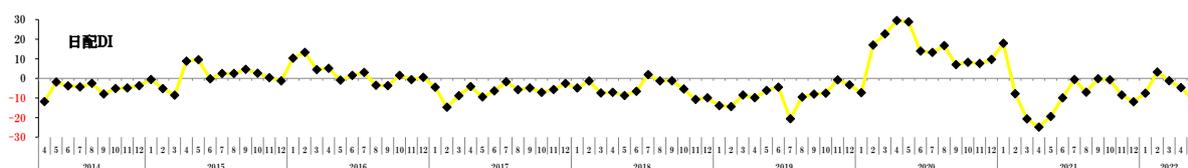
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
惣菜（前月）	1.7	13.1	28.0	46.3	10.9	12.9
惣菜（当月）	4.3	12.1	31.2	42.6	9.9	10.5



ゴールデンウィーク期間中は行楽需要が回復しプラス要因となったが、帰省客が増加した影響には明暗がわかれ、地方店舗は好調も、都市部住宅地立地の店舗ではマイナス要因となった。行事の再開による予約注文の増加もみられた。米飯類は前年並みだが、焼鳥やつまみ類など家飲み需要は落ち着きがみられた。調理油類の値上げの影響もあってか、唐揚げやコロッケなどの揚げ物類が好調に推移した。気温上昇により、サラダや冷惣菜の動きがよかった。

5. 日配DI：-10.7（不調）

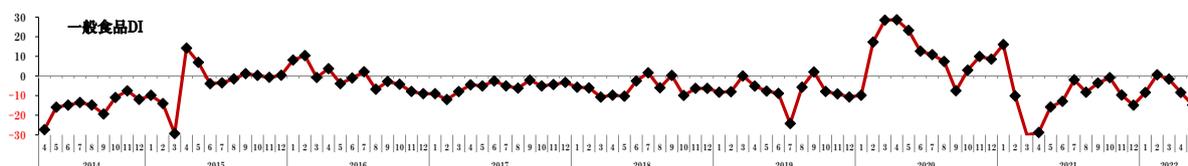
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
日配（前月）	6.3	36.4	31.3	22.2	4.0	-4.7
日配（当月）	12.7	37.3	33.1	14.1	2.8	-10.7



内食需要の低下傾向により、買上点数が低迷した影響を受けた。値上げのあったパン類などは、一品単価が上昇し、好調に推移。冷凍食品は前年並みに好調をキープしている。平年より気温が高く推移した地域を中心にアイスや飲料、ところてんなど涼味商材の動きが良かった。一方で練物や漬物、納豆などの和日配は動きが悪かった。チーズやバターなどの乳製品、機能性ヨーグルトには引き続き前年からの反動減がみられた。

6. 一般食品：-14.9（不調）

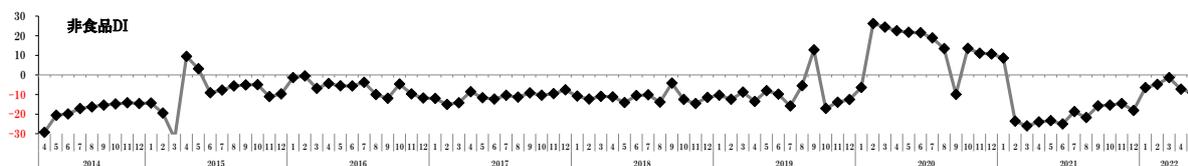
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
一般食品（前月）	10.1	38.2	30.9	16.9	3.9	-8.4
一般食品（当月）	17.5	39.9	30.1	9.8	2.8	-14.9



内食需要の低下に加え、値上げされた商品群が多く、買上点数の減少がみられた。高い気温によりペット飲料やそうめんなどの涼味商材が好調に推移した。菓子類は、比較的好調な店舗が多い。これまで好調だった保存性の高い食品(カップ麺、パスタなどの乾麺類、レトルト類、缶詰など)は、反動減が続いている。米類は相場安と点数で伸び悩みが続く。値上げのあった油や調味料は前年並みで推移した。家飲み需要に落ち着きがみられ、酒類や珍味などのつまみ類は前年比マイナスが多い。販促が打ちにくいなど影響を指摘するコメントもみられた。

7. 非食品 DI：-9.2（やや不調）

回答構成比（％）	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
非食品（前月）	11.0	34.3	33.1	15.7	5.8	-7.3
非食品（当月）	15.1	34.5	29.5	13.7	7.2	-9.2



マスクやハンドソープ、除菌関連などの衛生用品は前年より落ち込んだ一方で、紙コップや割り箸などの行楽用品が好調に推移した。外出やオフィスでの勤務が増えた影響か、ティッシュやトイレットペーパー、キッチンペーパーなどの紙製品、家庭用洗剤などは不振となった。気温の上昇により殺虫剤の動きがよかった。

カテゴリー別 DI による好不調判断

かなり好調：～ 20 好調：20 ～ 10 やや好調：10 ～ 0
 やや不調：0 ～ -10 不調：-10 ～ -20 かなり不調：-20～

2022年6月調査（5月実績）キーワード TOP3

1. 行動制限緩和による人流変化と来客数減少
2. 輸入品を中心とした価格高騰
3. 内食需要の低下

（参考）2021年6月調査（5月実績）キーワード TOP3

1. 前年緊急事態宣言下からの反動
2. 青果相場安、精肉相場高
3. 週末を中心に来客数回復

スーパーマーケット景気動向調査 集計数

5月実績速報版 150社
 4月実績確報版 185社

スーパーマーケット景気動向調査に関するお問い合わせ

スーパーマーケット統計事務局 tokei@super.or.jp